

三重県市町における人口移動（転出・転入）の分析

平成27年4月

三重県戦略企画部統計課

地域間の人口移動（転出・転入）を知るための統計は、総務省「住民基本台帳人口移動報告」と県「人口・世帯の動き（社会動態）」があり、毎年、毎月の移動の状況を把握することができますが、両方とも住民基本台帳に基づく転入届によるものである等の理由により、必ずしもその期間に実際に移動した者の数にはなっていません。また、市町間の移動については調査されていないため、把握することができません。

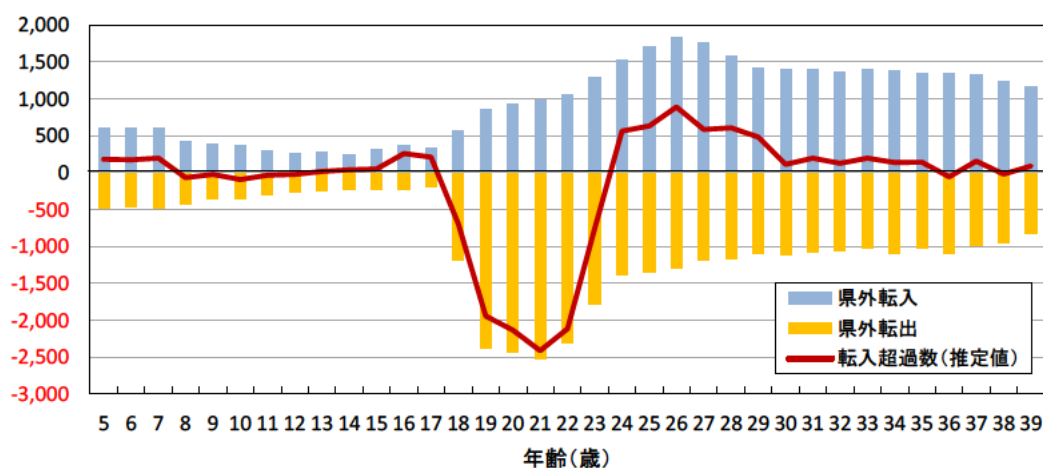
国勢調査は5年に1度の調査ですが、5年前の常住地調査による人口移動集計を利用したり、年齢別人口の増減数で推計したりすれば、5年前の常住地からの移動について市町村、年齢等の別を知ることができます。

このレポートでは、国勢調査に基づき、三重県及び県内市町における年齢別の人口移動（転出・転入）の状況について分析を行っています。

1 三重県の年齢別人口移動

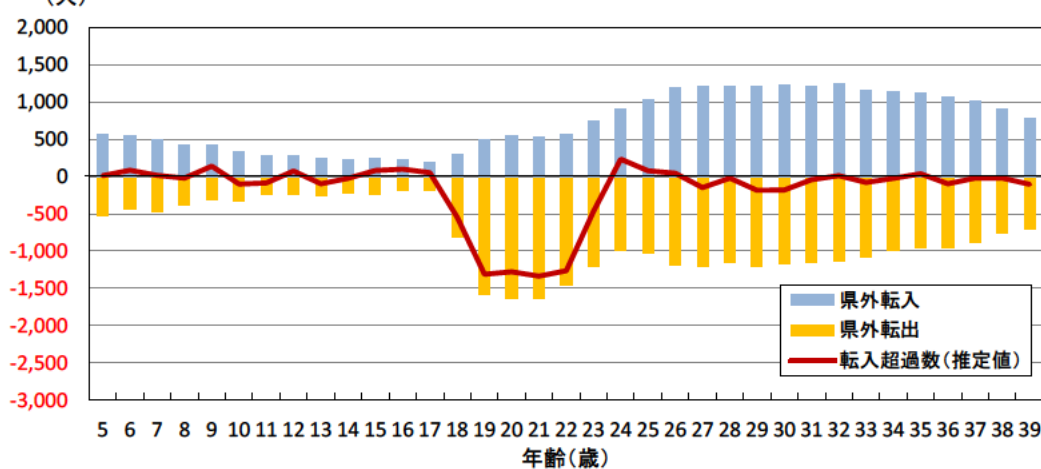
三重県の平成22年の5年前からの県外の転入・転出数及び転入超過数（推計値）を年齢別にみたのが次のグラフです。原点(0)より上が転入、下が転出となります。

〔図 1〕 年齢（各歳）別の5年前からの転入・転出超過数（平成22年） <三重県・男>



※県外転入及び県外転出は、平成22年国勢調査の人口移動集計による(国外の転入、転出を除く)
※転入超過数(推定値)は、各年齢別に平成22年人口から平成17年の5歳下の人口を差し引いて推計

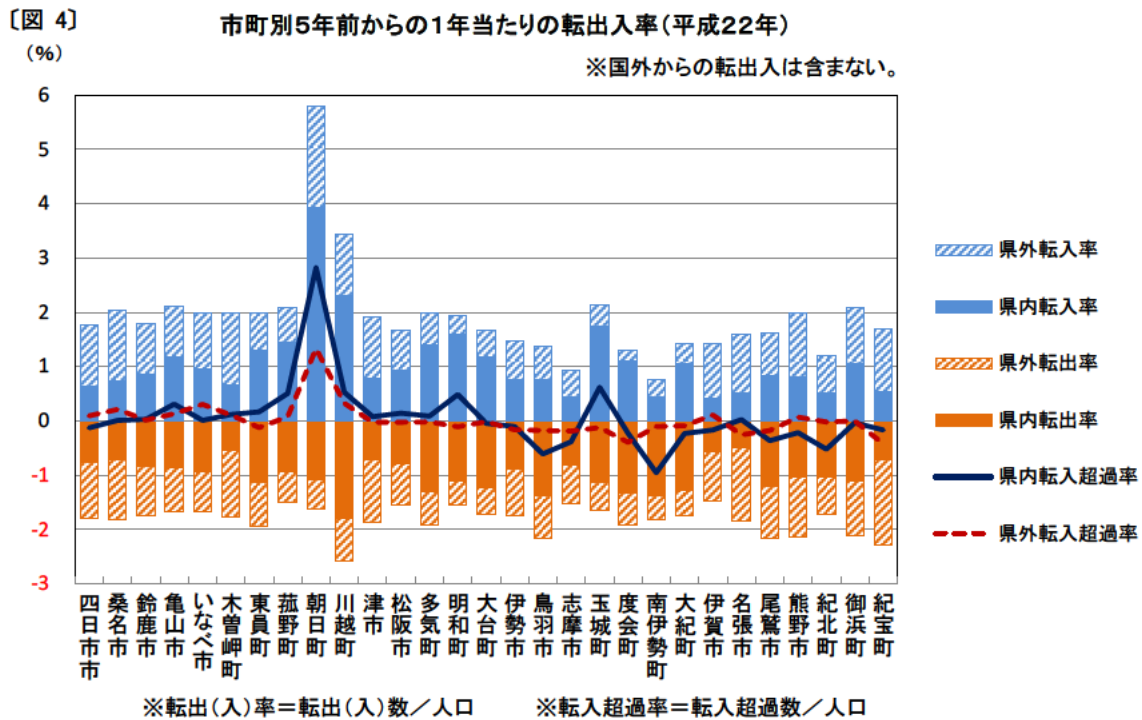
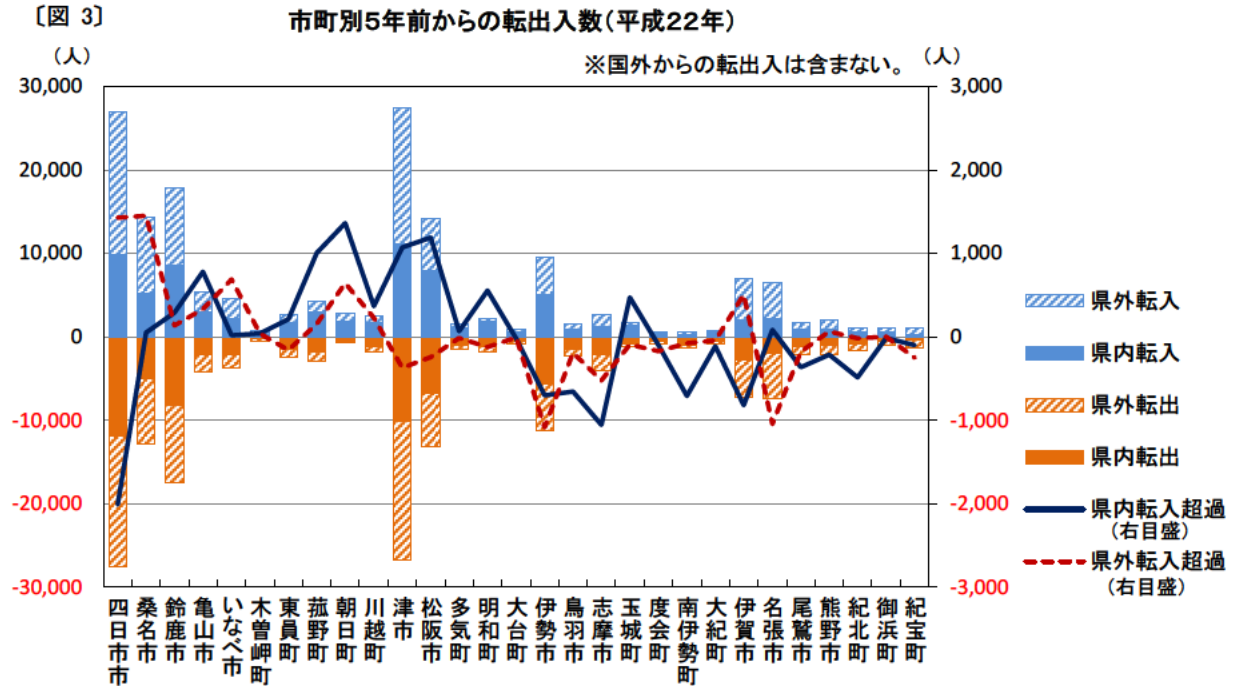
〔図 2〕 年齢（各歳）別の5年前からの転入・転出超過数（平成22年） <三重県・女>



- 男女とも高卒年後の18歳から23歳までが大幅な転出超過となっている。
- 男性は大卒年後の24歳から27歳とその上の世代も転入超過となっており、ある程度UターンかIターンがあると考えられるが、女性は大卒年後の世代でも24歳以外は転入超過の傾向が見られない。

2 市町別にみた人口移動

平成22年の5年前からの県内及び県外の人口移動について、市町別に実数及び人口に対する率(1年当たり)でみたのが次のグラフです。転入はプラス、転出はマイナスとしています。



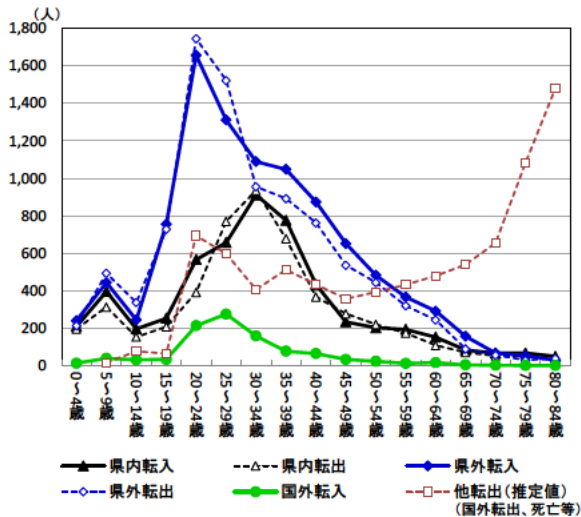
- 北勢地域は県外から転入超過となっている市町が多いが、県内は四日市市は転出超過、他の市町は転入超過となっている。
- 北勢地域以外はほとんどの市町が県外へは転出超過となっており、県内は津市、松阪市、明和町、玉城町が転入超過が大きく、志摩市、伊勢市、鳥羽市等伊勢志摩地域の市町の転出超過が大きい。
- 人口に対する転出入者の率は、県内は朝日町、川越町、玉城町が高く、県外は紀宝町、木曾岬町、名張市が高い。

3 市町における年齢階級別の人口移動

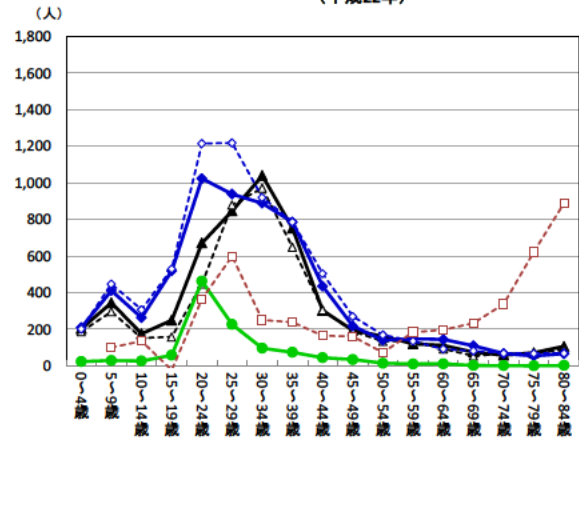
市町における年齢階級別の人口移動のサンプルとして、津市、桑名市、伊勢市における平成22年の5年前からの県内、県外、国外の転入及び転出数について、年齢別にみたのが次のグラフです。

※国勢調査人口移動集計では国外への転出は分からないため、5年前の5歳下の階級からの増減を全体の差引移動及び死亡数とみて、人口移動集計による差引移動数との差を他転出(国外への転出及び死亡数)と推定しています。

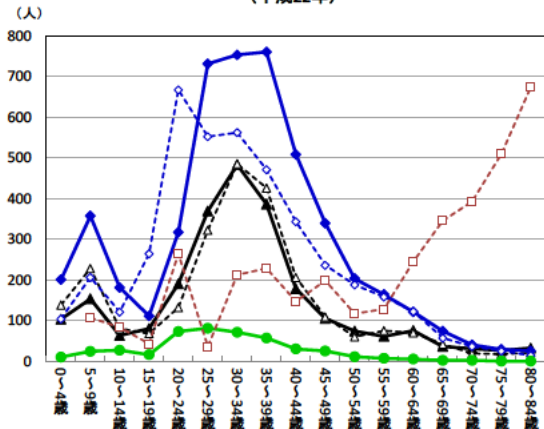
〔図 5〕 年齢階級別5年前からの転出入数〔津市・男〕
(平成22年)



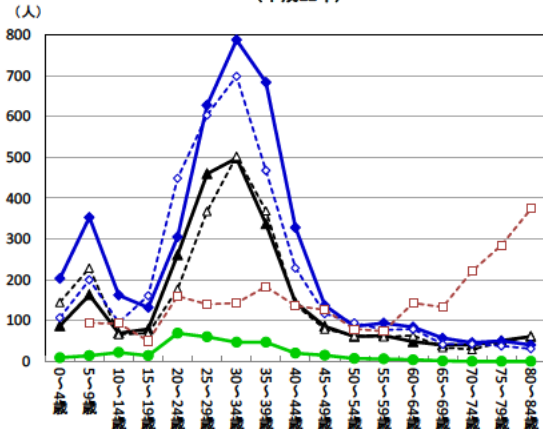
〔図 6〕 年齢階級別5年前からの転出入数〔津市・女〕
(平成22年)



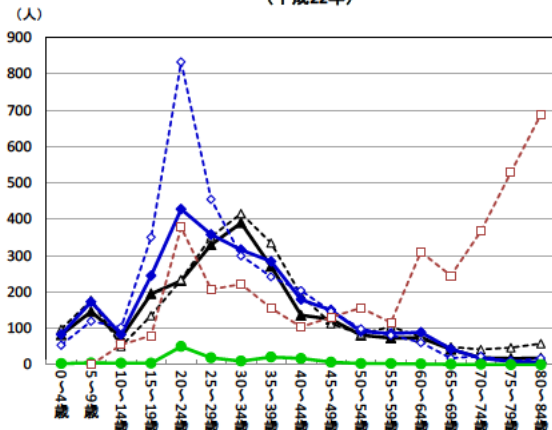
〔図 7〕 年齢階級別5年前からの転出入数〔桑名市・男〕
(平成22年)



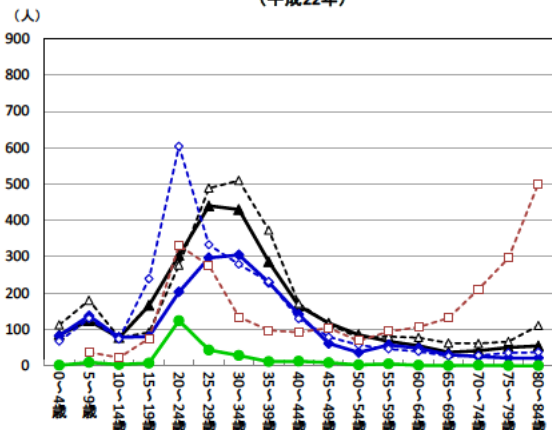
〔図 8〕 年齢階級別5年前からの転出入数〔桑名市・女〕
(平成22年)



〔図 9〕 年齢階級別5年前からの転出入数〔伊勢市・男〕
(平成22年)



〔図 10〕 年齢階級別5年前からの転出入数〔伊勢市・女〕
(平成22年)



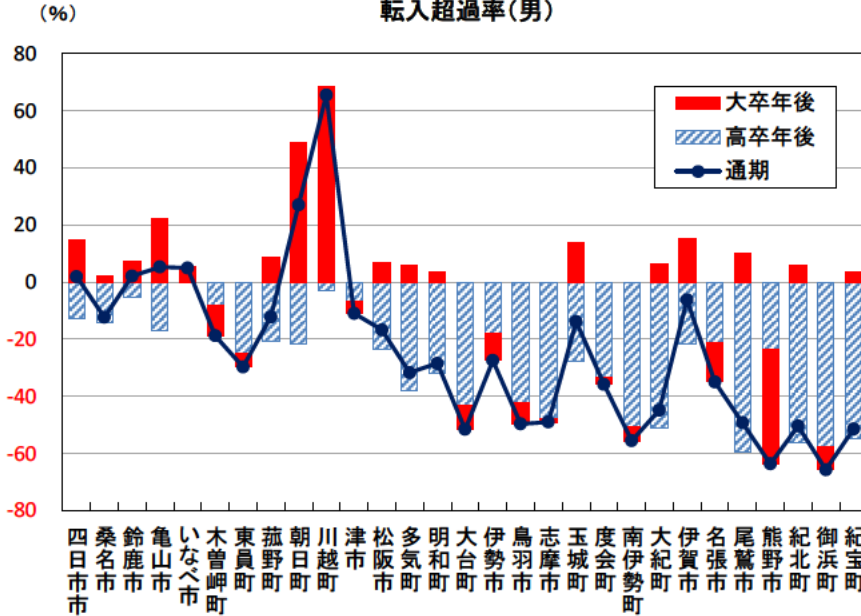
- 高卒年後の20～24歳は、桑名市、伊勢市は男女とも県外へ転出が転入を大きく上回っており、三重大学等のある津市でも男女とも県外への転出が転入を上回っている。
- 津市、伊勢市では大卒年後の25～29歳も男女とも県外への転出が転入を上回っており、Uターン以上に県外流出が多い。桑名市は25～29歳から上の世代で、県外からの転入が転出を大きく上回っている。

4 各市町における高卒年後、大卒年後の人口移動

各市町別に、平成22年に大卒年後の23～27歳の世代について、高卒年後及び大卒年後の年齢時の転入・転出超過数(推計値)を人口に対する率でみたのが次のグラフです。

〔図 11〕

市町別の平成22年23～27歳世代の高卒年後・大卒年後における転入超過率(男)



※転出超過数

大卒年:平成22年の23～27歳人口から平成17年の18～22歳人口を差し引いて推計

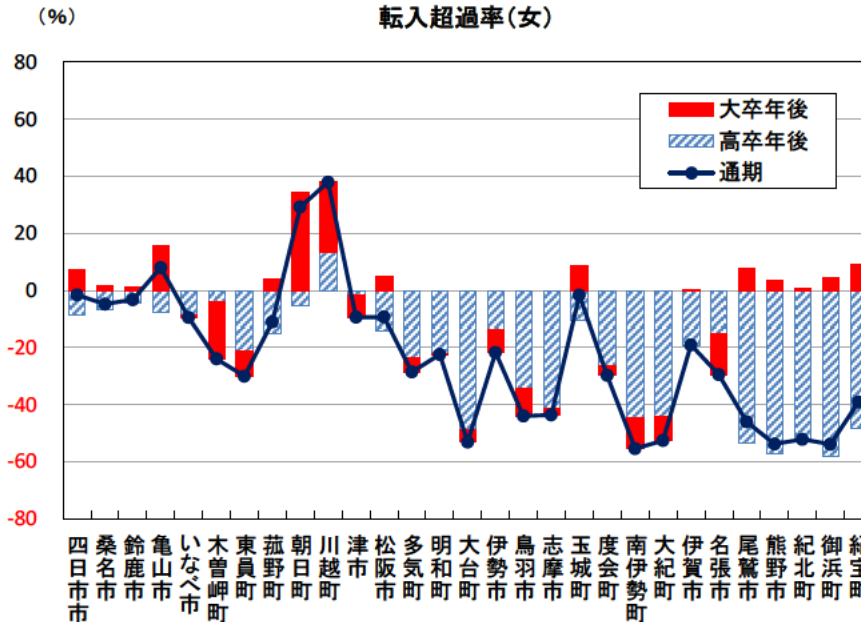
高卒年:平成17年の18～22歳人口から平成12年の13～17歳人口を差し引いて推計

※転出超過率=転出超過数/平成12年の13～17歳人口

	高卒年後	大卒年後	通期
四日市市	-13.1	15.0	1.9
桑名市	-14.2	1.9	-12.4
鈴鹿市	-5.1	7.2	2.1
亀山市	-17.0	22.3	5.3
いなべ市	-0.4	5.3	4.9
木曾岬町	-8.4	-10.5	-18.8
東員町	-24.9	-4.9	-29.8
菟野町	-20.9	8.6	-12.3
朝日町	-21.9	48.9	27.0
川越町	-2.9	68.4	65.4
津市	-6.5	-4.4	-11.0
松阪市	-23.4	6.6	-16.8
多気町	-37.9	6.2	-31.7
明和町	-31.9	3.4	-28.5
大台町	-43.0	-8.5	-51.6
伊勢市	-18.0	-9.5	-27.5
鳥羽市	-42.1	-7.6	-49.7
志摩市	-47.9	-1.1	-49.0
玉城町	-27.6	13.7	-13.9
度会町	-33.2	-2.6	-35.8
南伊勢町	-50.7	-4.9	-55.6
大紀町	-51.2	6.3	-44.9
伊賀市	-21.7	15.4	-6.3
名張市	-21.3	-13.6	-34.9
尾鷲市	-59.6	10.3	-49.3
熊野市	-23.5	-40.1	-63.6
紀北町	-56.4	6.0	-50.4
御浜町	-57.6	-8.1	-65.7
紀宝町	-54.8	3.4	-51.4

〔図 12〕

市町別の平成22年23～27歳世代の高卒年後・大卒年後における転入超過率(女)



	高卒年後	大卒年後	通期
四日市市	-8.8	7.2	-1.6
桑名市	-6.6	1.8	-4.8
鈴鹿市	-4.3	1.0	-3.3
亀山市	-7.7	15.7	8.0
いなべ市	-8.8	-0.7	-9.5
木曾岬町	-3.9	-20.2	-24.0
東員町	-21.3	-8.8	-30.1
菟野町	-15.0	3.8	-11.1
朝日町	-5.4	34.5	29.2
川越町	13.4	24.5	37.9
津市	-1.7	-7.8	-9.4
松阪市	-14.4	5.1	-9.3
多気町	-23.5	-5.1	-28.6
明和町	-22.0	-0.4	-22.5
大台町	-49.0	-4.2	-53.1
伊勢市	-13.6	-8.1	-21.8
鳥羽市	-34.4	-9.7	-44.1
志摩市	-41.2	-2.4	-43.6
玉城町	-10.6	8.9	-1.7
度会町	-26.2	-3.6	-29.8
南伊勢町	-44.5	-10.9	-55.5
大紀町	-44.2	-8.4	-52.6
伊賀市	-19.5	0.3	-19.1
名張市	-15.3	-14.2	-29.5
尾鷲市	-53.6	7.6	-46.0
熊野市	-57.4	3.6	-53.8
紀北町	-52.8	0.6	-52.2
御浜町	-58.2	4.3	-53.9
紀宝町	-48.2	8.9	-39.2

- 高卒年後は川越町の女性以外の全市町で男女とも転出超過となっており、特に、尾鷲市、御浜町、紀北町は男女とも、人口の50%以上の転出超過となっている。
- 大卒年後は北勢地域で転入超過となっている市町が多く、川越町、朝日町、亀山市等は通期でも転入超過となっている。一方、伊勢志摩地域は大卒年後も転出超過の市町が多い。